

2007 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日の期間に、総務省消防庁「全国救急搬送人員データ」に登録された患者さんおよびご家族へ

—「全国救急搬送人員データを用いた救急搬送の現状、関連要因、問題点の抽出などに関する観察研究」へご協力をお願い—

研究機関名およびその長の氏名：岡山大学病院 前田 嘉信

研究責任者：岡山大学 学術研究院医歯薬学域 疫学・衛生学分野 教授 頼藤 貴志

1) 研究の背景および目的

近年、救急車の出動件数が増え、病院に運ばれるまでに時間がかかるといった課題が大きくなっています。将来にわたって誰もが安心できる救急医療の仕組みをつくるためには、救急搬送の実態を全国規模で詳しく調査することが重要です。

この研究では、総務省消防庁が作成している全国の救急搬送データを使って、患者さんの年齢や病気、気象や災害などの環境の変化が、救急搬送にどのような影響を与えているかを調べます。

この研究の成果は、災害などが起きても対応できる、地域で安心して救急医療を受けられる仕組みをつくるために役立てられます。また、限られた救急車や病院のベッドを必要なところへ適切に割り当てたり、現場でのより良い応急手当の方法を見つけたりするなど、将来の医療の進歩や救急活動の改善に貢献します。

2) 研究対象者

2007 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日の間に、全国で救急搬送され総務省消防庁の「全国救急搬送人員データ」に登録された患者さん 9,933 万人を対象とします。

3) 研究期間

研究機関の長の許可日～2031 年 3 月 31 日

情報の利用開始予定日：研究機関の長の許可日から 1 週間後

4) 研究方法

消防庁から提供された、個人が特定できないように加工された救急搬送データと、気象データなどの環境情報を組み合わせて解析します。患者さんそれぞれの背景（年齢や病気・ケガの状況、日常的な医療処置の状況）、周囲の環境（気象や災害、社会背景など）、そして救急活動の状況（救急隊の活動内容や搬送にかかった時間など）が、病院に着いたときの病気やけがの重さや搬送の難しさにどのように影響しているかを統計学的に調べます。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、以下のデータを消防庁より提供いただき使用させていただきますが、氏名、生年月日、住所など、あなたを直ちに特定できる情報は一切含まれておりません。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- 患者さんの基本情報：年齢、年齢区分（新生児、乳幼児、少年、成人、高齢者）、性別、住んでいる

地域（消防署の担当エリア内か外かなど）

- ・ 発生日時と場所：発生した年と年月日、都道府県名とその番号、対応した消防署の番号、発生場所の大まかな分類と詳しい分類
- ・ 搬送にかかった時間：119 番通報を受けた時間、出動指示が出た時間、救急車が現場に着いた時間、救急隊が患者さんに接触した時間、患者さんを救急車に乗せた時間、現場を出発した時間、病院に着いた時間、病院に引き継いだ時間
- ・ 病気やケガの状況：事故や病気の種類、病名やケガの詳しい分類、最初に診察した医師による重症度の評価
- ・ 救急隊や医師の活動内容：電話での応急手当のアドバイス（誰がアドバイスしたか、できなかった場合はその理由）、医師が現場に来たか・救急車と一緒に乗ったか、救急救命士と一緒に乗っていたかとその資格状況（カメラ付きの器具やチューブを使った呼吸の確保、強心薬や血糖値を上げる薬の注射、心臓が止まる前の点滴などの特別な処置ができる資格）、現場で行われた各種の応急手当（呼吸や血液の巡りのサポート、体温の管理、聴診器での確認、血を止める処置、体を固定する処置、傷を覆う処置、日常的に受けている医療処置など）
- ・ 病院の選定と搬送状況：運ばれた病院に関する情報（救急指定病院かどうか、消防署のエリア内か外かなど）、重症患者を診る高度な病院へ運ばれたかどうか、病院が決まるまでに連絡した回数、別の病院へ再び運ばれた回数とその理由
- ・ その他：データを管理するための整理番号

また、上記の救急搬送データと組み合わせて、以下の一般に公開されている情報も使用します。

- ・ 気象などの環境データ：気温、湿度、降水量、暑さの指標（WBGT）、空気中の微粒子（PM2.5、SPM）
- ・ 社会や経済のデータ：失業率、物価の動き、景気の状態

6) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後 5 年間、岡山大学 学術研究院医歯薬学域 疫学・衛生学分野および臨床研究棟 1 階 岡山大学病院 救命救急科医局内の施錠可能な保管庫で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存します。一定の期間保存が必要な理由は、研究終了後も論文作成やデータ確認を行う事が想定されるためです。保管期間終了後は、個人情報に十分注意して、コンピューターから専用ソフトを用いて情報を完全抹消します。（※消防庁の規定により早期のデータ廃棄が求められる場合は、その規定に従い安全に廃棄します。）

7) 二次利用

この研究で得られた情報を将来別の研究に用いる可能性はありません。

8) 研究資金と利益相反

この研究は研究責任者および研究分担者が所属する教室の運営費交付金を用いて行います。この研究に関して利害関係が想定される企業等で研究責任者や分担者あるいはその家族が活動して収入を得ているようなことはありません。

9) 研究計画書およびお問い合わせについて

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。また、この研究成果は学会や論文等で発表される予定ですが、この研究は提供元の段階ですでに特定の個人を識別できないデータを用いて行われるため、発表において個人が特定されることは一切ありませんので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ただし、この研究で用いるデータは提供元の段階ですでに特定の個人を識別できない状態となっているため、ご自身やご家族のデータ

を特定して、情報の開示や利用を停止（削除）することは物理的に不可能です。あらかじめご了承ください。

<本研究に関するお問い合わせ先>

所属：岡山大学学術研究院医歯薬学領域 疫学・衛生学分野

職名：教授

責任者氏名：頼藤 貴志

連絡先：086-235-7173 （平日 9:00～17:00）

<https://www.unit-gp.jp/eisei/wp/?cat=76>

<研究組織>

既存情報の提供のみを行う機関

（機関名） 総務省消防庁（住所） 〒700-8927 東京都千代田区霞ヶ関2-1-2

（機関長氏名） 大沢 博

（担当者所属・氏名） 救急企画室 救急連携係 総務次官 佐藤 法久